

# “Heart to Heart”

心から心へ わかちあう あたたかさ

第12巻 第3号 (No.37)

発行日 2018年3月1日

## 四季を感じつつ子育てを

### 目次:

四季を感じつつ子育てを	1
療育プログラムの様子	2 3
コラム：言葉の意味と話し手の意味 その3	4
教育センターからのご案内	4

武蔵野東教育センター所長 計野浩一郎

今年度も残すところ1か月余りとなりました。保護者の方々も子どもたちもこの一年を振り返るとともに、新たな1年に向けて思いを巡らせていることと思います。

創立者の北原キヨが残した言葉の中に「自然の摂理に沿って育てていく」というものがあります。日本には四季があり、その影響を少なからず受けています。動植物の生理作用は季節とともに変化し、それ自体の繁栄を遂げていきます。春に花が咲き、夏に葉が茂り、秋に実がなり、冬に眠るとするのは、樹木の多数に見られる四季の影響ですが、人もまた同様です。ただ、人間は知識が先行し、四季からの恩恵を忘れてしまうことが多いように思われます。

春の世界は、冬に比べてたくさんの香りがある世界です。花が香りを発するし、若芽や若葉も香ります。食事として出されるものでも、植物性のものの多くは、身近に感じる美味しそうな香りを発するものが、冬よりずっと多くなります。温暖が与える物理的作用や、植物が与える生理的作用や薬物学的な働き、香気を与える心理的な働きなどは、春が人間に及ぼす事象なのです。

春だけでなく、夏も秋も冬も同じです。私たちは明らかに四季の影響を受けており、それは明らかに動植物と変わらないのです。だとしたら、私たちはもっとそれに順応し、四季に合わせていくことが大切だと思います。また、私たち自身の生活を組み立てていくことは、人が成長・発達していくうえで欠かせないものになっていくことは間違い

ないことだと感じます。

春と夏を考えれば、私たちの肉体を成長・発達させるようなことが、秋や冬より多くあるようです。また読書の秋という言葉に代表されるように、秋と冬は、心や精神を成長・発達させるようなことが、春夏よりも多く行われているように思います。春夏に手足を動かすようにすれば、目に見えて身体は発達します。秋冬に脳を多く働かせるようにすれば、目に見えて脳が発達します。それは、春夏に体育を真剣にやった人は、秋冬に脳を発達させやすいように思われます。そのような四季の循環が、子どもたちを成長させていくのだと少ない経験からですが、感じています。

私たちの指導も四季を意識し感じながら、子どもたちの体を鍛え、脳を働かせる機会を多く取り入れていきます。そして、子どもたちの内在する能力を引き出していけるように日々工夫し、新たな取り組みを積極的に取り入れていきたいと思っています。保護者の方々に「息子も私たちも武蔵野東学園とのかかわりが今年一番の収穫でした。」と言っていただけるように、今後も精一杯の支援を続けていきたいと思えます。保護者の方々におかれましても、新たな1年の始まりに際して、子どもたちに多くの学びの機会が得られるように希望を持たせて、4月を迎えられることを願っています。私たちは一緒に歩いていく存在として、いつも皆様のお近くにいます。





## 療育プログラムの様子 【各教室・言語プログラム】

**リズムーブ教室** トランポリンを使った活動を毎回実施しています。目的は、不安定なトランポリンの上でジャンプや足踏み、片足バランスなどを行うことで、拇指球や足の指をしっかり使って踏ん張りバランスをとる感覚を身につけるためです。短期間でその場足踏みやケンケン、ソフトブロック上でしゃがむ、昇降運動などができるようになりました。保護者からは「雪道で転ばなくなった」「階段の下りがスムーズになった」という嬉しい報告がありました。(高橋)



トランポリンを使った活動

**幼児絵画造形教室** 「ひなまつり製作」で、千代紙で折った着物のおひなさまとおだいりさまを作りました。子どもたちに「どんな顔にする？」と聞くと、「おひなさまはお化粧をしているね。」「おだいりさまはカッコいい顔だよ。」などの声が返ってきました。そして、できあがった作品はというと、目を伏せたおすまし顔のおひなさまと、りりしいおだいりさまでした。どうぞ、個性的な作品をご覧ください。(本田)



おすまして、はい、ポーズ！

**体育教室** ヨガで「木のポーズ」をするときに、片足立ちができて、上げた膝が前を向いてしまい、股関節を開けない子どもがいます。そこでセンターでは、立位で行う前に、床に寝た状態で股関節を開く感覚を覚える練習を行っています。股関節の開きに左右の差がある場合もあります。股関節は上半身と下半身をつなぐ重要な部分ですので、是非ご家庭でも行ってみてください。(鈴木)



しっかり膝を倒して

**SST教室** 5・6年生のクラスでは1年を通して友だちと会話を続ける練習を行ってきました。友だちの話に質問をして、長く会話を続けることを目標にしてきた結果、会話が途切れにくくなってきました。どうしても途切れそうになったときは『他には～ですか？(例:他には何をみましたか?)』という質問をし、話題を変えてさらに会話を続けていくことも練習しています。(大澤)

### 質問の例②

★ いつ、どこ、だれ、なにをきく。

- いつのこと？
- どこに行ったの？

リストを参考に質問を考える子もいます

**ダンス教室** 発表会で椅子を使用したラインダンスと「じゃんけんポン！」の2作品を披露しました。後者は足で行うゲーチョキパーが最大の見せ場ですが、音楽に合わせて大きく動けるようになるまで時間をかけて何度も練習しました。本番は大成功！各々が自信を持って踊りました。パステルカラーのワンピースの衣装はとても可愛らしかったのですが、それ以上に皆の笑顔がキラキラと輝いていました。たくさんの拍手をありがとうございました。(新堂)



躍動感あるダンスを披露

**言語プログラム** カードに書いてある物の名前を言う活動をよく行っています。楽しみながら名前を言えるように、おもちゃのプロジェクターを使用することもあります。部屋を真っ暗にして壁などに動物の写りが浮かび上がると、子どもたちは喜んで「とらー！」と大きな声で言います。映写する場所を移動させると、しっかり目で追って探したり、「高いところにある」「横の壁に移った」などと位置を表す言葉を使って話したりと、様々な練習になっています。(浜野)



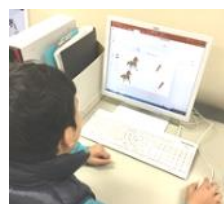
天井に写して

**幼児体育教室** 1月からバランスボードに取り組んでいます。このバランス器具は、腰の捻りと足の踏み込み、この2つの動作を連動させることで進みます。初めて行う子どもたちは、固い床の上では少しすべりやすいので初めマットの上で練習していましたが、2月からは床の上でも少しずつバランスがとれるようになってきました。今年度も残りわずか、たくさん体を動かしていきましょう。(久留)



足は赤い線！

**コンピュータ教室** Power Pointのアニメーション機能を使う練習をしました。「開始」「終了」「軌跡」のアニメーションを色々なイラストに設定し、ブロックを積み上げたり、電車を右から左へ動かしたりする活動を行いました。操作に慣れてくると、子どもたちは自分で工夫してタイミングや速度を設定し、友だち同士で見せ合ったり操作方法を教え合ったりしながら活動を楽しんでいました。(吉田)



馬に人参をたべさせよう！



**【スクールプログラム・ラーニングプログラム】**

**幼児** 年少スクールでは冬の製作で『ゆきだるま』を作りました。ちょうど雪が降っており、子どもたちも普段あまり見られない真っ白な雪に「雪だね！」と楽しそうにしていました。ゆきだるまの製作では、くれよん、のり、シール、パーツの構成などの作業を組み合わせました。それぞれが貼る目や鼻、口のシールで表情が変わるのも面白いポイントの一つです。子どもたちはしんと雪が降る中、集中してゆきだるまを完成させることができました。(諸橋)



仕上げの雪はシールを貼って

**1年生** 国語のカテゴリー分けと算数のお金の学習を総合して、教室をお店に見立てて買い物の練習をしました。500円硬貨を1枚財布に入れ、「野菜を1つ、果物を1つ、お菓子を2つ買って来てね」の指示で、それぞれのコーナーで商品をかごに入れてレジへ進みます。お釣りとレシートをもらって買い物は終了です。とても楽しく有意義な体験学習になりました。(宮下)



何を買おうかな

**2年生** 「文作り」の学習では、いつ、どこで、だれが、どうした、の構成で文を書く練習を行っていますが、それらの理解を深めるために読解問題にも取り組んでいます。色々な方法で繰り返し文章に触れることで、語彙が増え、文の組み立ての要領もつかめるようになってきます。「習うより慣れよ」の言葉通り、これからも学習の積み重ねを大切にしていきます。(宮川)



どんなお話にしようかな？



リズムを合わせよう！

**3年生** 鍵盤ハーモニカで、課題曲「パフ」の演奏に挑戦しています。階名ごとに色分けした譜面と鍵盤に付けた色シールとを対応させる方法により、譜面読みが苦手な子どもでも演奏を楽しむことができました。譜面の提示の仕方や、階名を先読みして伝えるタイミングなど、個に合った練習方法を工夫することで誰でも演奏を楽しめるように工夫していきます。(久留)



道順の説明

**4年生** 言葉だけで目的地までの道のりを説明する学習を行っています。歩いていく方向によって左右どちらに曲がるか、向かって左側なのか右側なのかなどを説明するのは意外と難しいものです。また、電車の路線図を使い目的駅までの乗換案内の仕方を説明する学習も行っています。必要な言葉を選び相手に伝わる話し方ができることを目標に頑張っています。(藤本)



グラフのかき方を説明

**5年生** 算数では『割合とグラフ』の単元を取り扱いました。表に書かれたさまざまな数値や割合を円グラフや帯グラフで表す学習では、グラフの作成手順を動画で学びました。注目する数値の色を変えて表示したり、線を引く部分を矢印で示したりなど、アニメーションを用いて説明することで、よりわかりやすくなり、興味を持って聞くことができていました。(大澤)



友だちと長縄跳び

**6年生** 体育で長縄跳びを行いました。自分で何回跳ぶか目標を立て、中には50回以上跳べた子どももいました。初めは担当者が縄を回していましたが、慣れてきたところで、子どもたち同士で縄を回しました。上手に縄を回すには呼吸を合わせなければならないため、「せーのではじめて、さっきよりゆっくり回そう」などと相談しながら行っていました。(吉田)

**中学生** 数学でお金の学習を行っています。広告から店舗名や商品の値段、セール期間などの情報を読み取ってプリントにまとめました。また、広告に記載してある「半額」や「〇%引き」などの言葉の意味を理解するために視覚的にわかりやすい教材を使って割合の学習をしたり、計算をして割引後の値段を求めたりして、理解を深めました。(吉田)



広告の読み取り

**ラーニングプログラム** 幼児は、塗り絵の練習をすることがあります。子どもによって、モチーフ枠の中央付近は塗りつぶすことはできていても、端の部分の塗り込みが課題となる場合があります。そうした事例では、子どもが塗り残し部分に注意が向くよう、端を残して中央部だけを着色したモチーフを使用します。このように、課題の焦点を絞り込んだ練習をすることで端まで塗りこむことへの意識がつき効果的でした。(久留)



端を塗ろう！





## コラム 自閉症の研究から (4)

## 言葉の意味と話し手の意味 その3

前回お伝えしたことの中に、自閉スペクトラム症の人たちにとって、言葉の意味は、相手の顔の表情や声色などから読み取れる情報よりも、信頼できる情報であるということをお伝えしました。今回は、そのことを示している研究結果についてお話したいと思います。

武蔵野東教育センターのご協力をいただきながら、私たちの研究グループでは、言葉の力のある自閉スペクトラム症児と定型発達児(どちらも小学生)を対象に、調査を行いました。

参加してくれた子どもたちに、まず二人の女性の写真を見てもらいました。ひとりはいやしそうに微笑んでいて、もうひよりは機嫌が悪いのかむっとしています。そして、「このあと、女の人の声が聞こえてきます。このふたりのうちのどちらかひとりの声です。どちらの人の声か、指差して教えてください」とたのみました。「おもしろい」「つまらない」といった、気持ちを伝える言葉や、「にわとり」「ブランコ」のような、物

の名前を表す言葉を順番に聞いてもらいました。

「おもしろい」という言葉がうれしそうな声で聞こえてきたとき、子供たちはうれしそうな顔を選びました。「つまらない」という言葉が不機嫌そうな声で聞こえてきたときには、不機嫌そうな顔を選びました。言葉の意味と声色があらわす意味が同じ場合は、自閉スペクトラム症も定型発達児も、言葉と顔の表情を正しく組み合わせることができました。

「うれしい」という言葉が怒った声で聞こえてきたときや「きたない」という言葉がうれしそうな声で聞こえてきたときはどうだったでしょうか。言葉の意味と声色があらわす意味が逆になっている場合です。定型発達児は、声色を優先して写真の顔を選びました。対照的に自閉スペクトラム症児は、言葉の意味を優先して選ぶ傾向がありました。不機嫌な声でも、「うれしい」といった人はうれしいのだと理解するのです。

自閉スペクトラム症児は、言葉が

松井 智子(東京学芸大学教授)

示す感情は理解できても、声色が伝える感情を理解することができなかつたのでしょうか。実は私たちの調査で、そうではないことがわかっています。「にわとり」「てぶくろ」などといった、感情とは関係のない言葉を、うれしそうな声と不機嫌そうな声で聞いてもらったところ、自閉スペクトラム症児も定型発達児と変わらず、声色に合った顔の表情を選ぶことができたからです。

この研究からわかったことは、声色から感情を読み取ることができるのに、言葉の意味が声色と矛盾しているとき、自閉スペクトラム症児は言葉の意味を優先して感情を理解するということです。言葉の力のある自閉スペクトラム症の小学生にとって、言葉の意味は声色よりも信頼性が高い情報であることを示していると思います。なぜそうなのかについてはまだわかっていないので、これから調べてみたいと思っています。



このコラムは4回シリーズでお届けしました。

## 2018年度セミナーのご案内

2018年度の保護者・支援者向けセミナーの日程が決まりましたのでご案内いたします。講師が決定しましたらホームページなどでお知らせします。4月上旬より募集を始めますので、ご希望の方はお早めにお申し込みください。

- 第1回 2018年 5月24日(木) 10時～12時
- 第2回 2018年 11月6日(火) 10時～12時
- 第3回 2019年 2月22日(金) 10時～12時



2017年5月 春原則子先生  
「読み書きが困難な子どもへの対応と支援」

学校法人 武蔵野東学園  
武蔵野東教育センター

〒180-0012 武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org

ホームページもご覧ください



## 2018年度療育プログラムについて

2018年度の療育プログラムに多くの方に応募いただきありがとうございました。プログラムによってはまだ若干空きがあるものもございます。空きがないプログラムについてはキャンセル待ち登録もできますので、ご遠慮なくお問い合わせください。